



ムシガレイ (日本海南西部系群)

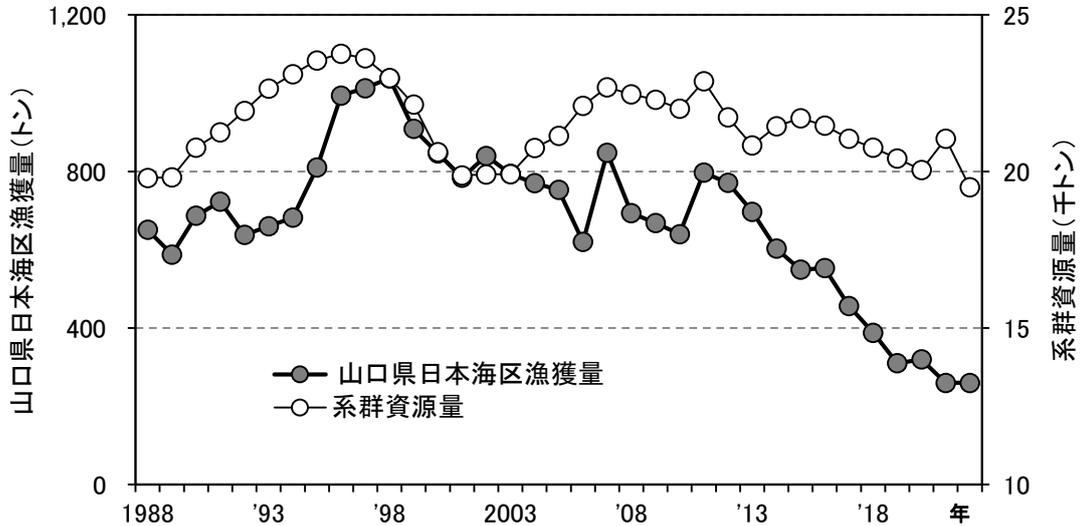


図 山口県沖合底びき網漁業ムシガレイ漁獲量 (下関漁港水揚量) 及び日本海系群ムシガレイ資源量 ((国研) 水産研究・教育機構資源評価報告書)の推移

【漁業】ムシガレイは主に沖合底びき網で漁獲され、沿岸域では小型底びき網でわずかに漁獲される。沖合底びき網による主な漁獲サイズは全長 16~25cm (2~3 歳) である。

【漁獲量】山口県沖合底びき網漁業の漁獲量は、2001年には1,338トンであったが、その後急激に減少し、2004年には397トンになった。その後2005年以降2009年までは400トン前後で推移していたが、2010年から減少傾向に転じ、2021年には過去最低の58トンとなった。

【資源状態】資源量は2001年に5,463トンのピークがあり、その後2004年にかけて減少した後、2008年まで約4,500トンで横ばいであった。その後2009年から2017年にかけて大きく減少した。2017年には1,697トンになった。2018年には前年よりやや増加したが、2019年以降2021年まで緩やかに減少した。2022年の資源量は前年をやや上回る1,739トンと推定された。

2022年の親魚量 (SB) は最大持続生産量 (MSY) を実現する親魚量 (SB_{msy}: 目標管理基準値) を下回った。また、2022年の漁獲圧 (F) はMSYを実現する漁獲圧 (F_{msy}) を下回った。親魚量の動向は横ばいと判断された。

2022年漁獲量 (千トン)	MSY (千トン)	2022年親魚量 (千トン)	目標管理基準値 (千トン)	限界管理基準値 (千トン)	禁漁水準 (千トン)
0.3	1.5	1.1	4.0	1.9	0.3

*暫定値